

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17017

建築物名称	日進町高架下自転車駐車場
建築主	川崎市長 福田 紀彦
建築物の所在地	川崎市川崎区日進町28番地1
設計者氏名、建築士事務所名	田中 幹治 株式会社トーニチコンサルタント 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,630.70m ²
用途	自転車駐車場、自動車車庫
構造	鉄骨造
階数	地上2階
工事完了予定年月	平成30年11月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日進町高架下自転車駐車場	階数	地上2F
建設地	川崎市川崎区日進町28番地1	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年11月 予定	評価の実施日	2017年7月7日
敷地面積	1,277 m ²	作成者	三上 剛司
建築面積	1,150 m ²	確認日	2017/0725
延床面積	2,631 m ²	確認者	田中 幹治

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.4 ★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 #DIV/0!
②建築物の取組み #DIV/0!
③上記+②以外の #DIV/0!
④上記+ #DIV/0!

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 1.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気質環境: N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.5

機能性: N.A. 耐用性・信頼性: 2.4 対応性・更新性: 2.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.3

生物環境: 1.0 まちなみ・景観: 1.0 地域性・アメニティ: 2.0

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 0.0

建物外皮の熱負荷: N.A. 自然エネルギー: N.A. 設備システム効率化: N.A. 効率的運用: N.A.

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

水資源保護: N.A. 非再生材料の使用削減: 2.8 汚染物質回避: 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

地球温暖化への配慮: N.A. 地域環境への配慮: 2.8 周辺環境への配慮: 3.2

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	1.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	排熱を伴う設備を設置していない	1.0/4.3	1.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	排熱を伴う設備を設置していない	0.5/1.3	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.0
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御		0.0/0.0	-
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	排熱を伴う設備を設置していない	0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用		0.0/0.0	-
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	鉄道高架躯体を利用		
3 3.2 フロン・ハロンの回避		2.6/4.6	2.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	排熱を伴う設備を設置していない	0.5/1.3	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.6
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.8	2.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	鉄道高架躯体を利用	2.1/3.8	2.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.6	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	1.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	排熱を伴う設備を設置していない	0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用		0.0/0.0	-
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	排熱を伴う設備を設置していない	0.5/1.3	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.2	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用	鉄道高架躯体を利用		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		1.2/1.5	4.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用		0.0/0.0	-

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				評価点		重み係数	評価点	重み係数		
	G	W	R	H							
Q 建築物の環境品質										1.8	
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能		W									
3 ゾーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備			W								
3.2 グレア対策											
1 昼光制御			W								
3.3 照度											
3.4 照明制御											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視											
2 喫煙の制御											

Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	2.5
1 機能性				-	-		-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-		-	-
1	広さ・収納性			-	-		-	-
2	高度情報通信設備対応			-	-		-	-
3	バリアフリー計画			-	-		-	-
1.2 心理性・快適性				-	-		-	-
1	広さ感・景観			-	-		-	-
2	リフレッシュスペース			-	-		-	-
3	内装計画			-	-		-	-
1.3 維持管理				-	-		-	-
1	維持管理に配慮した設計			-	-		-	-
2	維持管理用機能の確保			-	-		-	-
2 耐用性・信頼性				2.4	0.50		-	2.4
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	-
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80		-	-
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20		-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				2.3	0.30		-	-
1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.22		-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		3.0	0.22		-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		3.0	0.11		-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		-	-		-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		-	0.22		-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.22		-	-
2.4 信頼性				1.0	0.20		-	-
1	空調・換気設備			-	-		-	-
2	給排水・衛生設備			-	-		-	-
3	電気設備			1.0	1.00		-	-
4	機械・配管支持方法			-	-		-	-
5	通信・情報設備			-	-		-	-
3 対応性・更新性				2.6	0.50		-	2.6
3.1 空間のゆとり				1.8	0.30		-	-
1	階高のゆとり			1.0	0.60		-	-
2	空間の形状・自由さ			3.0	0.40		-	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30		-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.40		-	-
1	空調配管の更新性			-	-		-	-
2	給排水管の更新性			-	-		-	-
3	電気配線の更新性			3.0	0.20		-	-
4	通信配線の更新性			-	-		-	-
5	設備機器の更新性			3.0	0.40		-	-
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.40		-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	1.3
1 生物環境の保全と創出				G	W	H		1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G				1.0
3 地域性・アメニティへの配慮								2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								2.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H		2.0

LR 建築物の環境負荷低減性										2.9	
LR1 エネルギー											
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H								
2 自然エネルギー利用	W		H								
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEQ][BEIm] =							
4 効率的運用											
集合住宅以外の評価											
4.1 モニタリング	W		H								
4.2 運用管理体制	W		H								
集合住宅の評価											
4.1 モニタリング	W		H								
4.2 運用管理体制	W		H								
LR2 資源・マテリアル										2.8	
1 水資源保護				W	R						
1.1 節水											
1.2 雨水利用・雑排水等の利用											
1	雨水利用システム導入の有無										
2	雑排水等利用システム導入の有無										
2 非再生性資源の使用量削減										2.8	
2.1 材料使用量の削減				W	R						
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W	R	鉄道高架躯体を利用					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W	R	-					
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W	R	-					
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W	R						
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W	R						
3 汚染物質含有材料の使用回避										3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用											
3.2 フロン・ハロンの回避											
1	消火剤			W							
2	発泡剤(断熱材等)			W							
3	冷媒			W							
LR3 数地外環境										3.0	
1 地球温暖化への配慮				W							
2 地域環境への配慮										2.8	
2.1 大気汚染防止						燃焼機器を使用していない					
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W						
2.3 地域インフラへの負荷抑制											
1	雨水排水負荷低減				R						
2	汚水処理負荷抑制				R						
3	交通負荷抑制				R						
4	廃棄物処理負荷抑制				R						
3 周辺環境への配慮										3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止											
1	騒音										
2	振動										
3	悪臭										
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制											
1	風害の抑制										
2	砂塵の抑制										
3	日照障害の抑制										
3.3 光害の抑制											
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策										
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策										